

実施回 (実施年)	受賞名	実施回 (実施年)	受賞名
第1回 (1984) ～ 第16回 (1999)	針木グリーンハイツ 高知市寺田寅彦記念館 五台山モノレール跡地建物及び ランドスケープ 広末ビル(AVENUE) 高知ぢばさんセンター及び 高知県中小企業会館	第17回 (2001)	森の情報館エコアス馬路村 高知市東部総合運動場屋内競技場 「くろしおアリーナ」 岡本邸 安岡邸 ◇横浜瀬戸コミュニティ計画 推進市民会議
	△天神大橋 青柳土佐日記ビル レストラン自然堂 広松久穰邸 島村写真館	第18回 (2002)	高知市文化プラザ かるぼーと 細木建築研究所 山岡邸 大きなサンデッキを持つ家 △高知城橋
	△城西公園の日本庭園と桜並木 ASTIR121ビル 土佐塾中・高等学校校舎と体育館	第19回 (2003)	ルイ・ヴィトン高知店 四国銀行桂浜通支店 笹岡邸 月見ヶ丘の家
	△新月橋 吉村雄治邸 高知市立自由民権記念館 高知市斎場 帯屋町壱番街アーケード	第20回 (2004)	セブンデイズホテルプラス 龍馬の生まれたまち記念館 一ツ橋の家 Y邸 △四国ガス(株) 高知工場
	★高知県立坂本龍馬記念館 高知市立久重小学校 池知接骨院 医療法人精華園 さえんば耳鼻科	第21回 (2005)	さわだ耳鼻咽喉科 ドナルド・マクドナルド・ハウス こうち 正木邸 光と風をむかえる家
	高知市保健福祉センター 土佐女子短期大学 トップワン四国 国民宿舎 桂浜荘 星ヶ丘アートヴィレッチI・II 帯屋町公園・駐輪場 チカミビル	第22回 (2006)	ケントビル 京町店 手打そば処 土佐更科 長浜店 O邸(改修工事)
	恒石邸 新京橋プラザ 口細山の家(太田邸) 水上邸 株式会社相愛 嶋本邸 旭ロイヤルホテル ヘアースタジオ Tsuya	第23回 (2007)	アスパルこうち 時を紡ぐ家 Y邸
	★はりまや橋商店街木造アーケード はりまや[アルコ] 山下脳神経外科	第24回 (2008)	K邸 一圓邸
	★高知県立牧野植物園 牧野富太郎記念館	第25回 (2009)	竹格子のある家 特選呉服いしはら 「くじらドーム」高知駅舎大屋根 △JR土讃線鉄道高架橋
	山本邸 スーパーホテル高知	第26回 (2010)	B-CYCLE とさてらす H邸 光格子が出迎える家

※第1回から第16回までは、高知市文化振興事業団の主催で開催されました。

★は特賞 △はテーマ(土木・工作物)部門 ◇は街並み・まちづくり部門を表します。



受賞

都市美とは・・・
「都市美」というと、造形的に美しい街並みを創造しがちですが、私たちの心に豊かさを与えてくれる自然、人の心づかいとふれあいのある風景も「まちの美しさ」のひとつではないでしょうか。建築物、街並み、みどりや水辺などの自然環境と歴史、文化、優しさ、親しみなどの快適さを地域に調和させ、美しく親しまれる都市景観、個性的で魅力ある都市空間を「都市美」と定義し、それを創造し、再生し、守っていきたいと考えています

The 27th Kochi City Scenery Design Award

～選考を終えて～

今年度の都市美デザイン賞への応募総数は36通あり、応募物件数としては一般建築部門に11件、住宅建築部門に14件、テーマ部門に2件、街並み・まちづくり部門に3件の応募があった。応募総数は昨年(42通)に比べてやや少なかったが、応募物件数では昨年(27件)を上回った。各部門ごとに1次審査と2次審査を行い選考した結果、一般建築部門において2件、住宅建築部門において2件、テーマ部門において1件のそれぞれが入賞した。なお、街並み・まちづくり部門は、入賞の該当は無く、特賞の該当も無かった。

一般建築部門において入賞した『お食事だいせい』と『青木歯科』は、それぞれが市民の親しみがもてる外観で、丁寧かつ繊細にデザインされている。木材を多用して、高知という地域性を意識しつつ、温かみと落ち着きのある雰囲気をもった建築物であり、新しい都市景観の創出によって地域を活性化させる影響力のある優れた物件である。

住宅建築部門で入賞した2件は、個々に異なる敷地条件であったが高知特有の日差しや風雨を遮る深い軒の出を持ち、土佐漆喰を使った外観が周辺に柔らかな風情を醸し出し、地域の景観をリードする新しい都市美を創り出している。また、いずれの建物も、地域の地域性を考慮した建築材料が使用されており、蓄積を経てかなり洗練されたものになっていることも評価された。『あかり格子の家』は隣家の良質なデザインを受け継ぐ形で街並みとしてデザインされた建築物であり『山谷のせせらぐ家』は、周辺の自然と溶け合う建築物である。

テーマ部門に入賞した『ブッダドームとめぐりのもり』は、自然の森を親しみやすく再生させた事例である。高知には、まだまだ、こうした活かされていない景観資源があるように思われる。一歩前にチャレンジすることで、人が集いたたずむ場所ができるという好例である。

お食事だいせい

新本町



- 建築主・大清興産株式会社
- 設計者・有限会社 建築設計群 無垢
- 施工者・四国プレコン株式会社

評 JR高知駅の北口駅前広場に立地する飲食施設である。建物の周囲には、樹木が植えられ、歩道から店舗の入口までスロープが配置されており、深い軒先とその下に広がる半屋外スペースで、ゆったりとした広さをもって繋がっている。軒先の水平ラインが、JR高知駅舎くじらドームの曲線にも程よく調和して、駅前広場からのアプローチとしても開放感を感じさせ、南国の日差しや風雨を遮る機能面からも効果的である。また、市松模様をベースとしたデザインモチーフは、県内産杉材の製品プロダクトを流用した開口部デザイン、天井木製パネルの配置パターン、廃材である焼成窯の敷材を転用したスロープの床パターン、さらには建物と駐車場を隔てるコンクリート壁のテクスチュアまでかなり丁寧に繰り返されており、建物に一定のリズムと表情を与えている。営業形態は、昼はうどん専門で夜は飲食店であるが、このような洗練されているながらも、高知らしさを感じさせる都市デザインは駅前や観光地で景観的に望まれている。

青木歯科

西秦泉寺



- 建築主・青木博幸
- 設計者・有限会社 紳建築工房
- 施工者・新進建設株式会社

評 交通量の多い高知北環状線沿いに面した木造の診療所である。建物は、芝生が植えられた駐車場によって道路からセットバックしており、木の縦格子で目隠しされた駐輪場とあわせて、外壁の木と緑に囲まれたとても気持ちのよい雰囲気をつくっている。デザイン上の重要なモチーフでもある木製ルーバーは、建物正面と奥行き方向にわたりダイナミックな木組みと吊木や押縁といった様々な箇所での材の間隔を変化させながら配置されている。この木製ルーバー群は、2階部分では道路側に向けて連続性を持った表情をつくり、1階部分ではエントランスや駐車場・駐輪場といった外部に面したスペースに合わせた表情をそれぞれ魅せている。それらによって、道路側からの喧騒を和らげて診療所の環境を保つとともに、内部からの開放感も確保されている。また、敷地内に建つ独立広告物のデザインや統一されたサインなど色彩計画も含めて高く評価された。

あかり格子の家

万々



- 設計者・有限会社 西森啓史建築研究所
- 施工者・有限会社 今井工務店

評 高低差のある閑静な周辺市街地に建つ木造2階建の住宅である。特徴は、駐車場から居住部分である母屋へつながるアプローチにあり、玄関と物置や階段などをブロック化して階段状に建築された半屋外スペースである。そのボリュームは、敷地の傾斜を活かし道路側を低く抑えており、コンクリート打放しの壁面はシンボルツリーであるモミジの背景となり、シャープな表情を魅せている。水平に伸びる軒先のラインはヒューマンスケールを示しているのと同時に、日差しや風雨を遮る機能面からも効果的である。さらに、木製の格子を壁面に配することで、日々のさまざまな外光を取り入れる工夫がされている。母屋は、外壁を土佐漆喰で仕上げ、屋根の日本瓦を一文字瓦で葺くことにより、建物全体ですっきりとした印象を受ける。外構では、道路側のシンボルツリーや駐車場の目地や斜面を緑化することで、裏山の眺めも含めてよく考えられている。また、西側に建つ隣家と呼応しあうような形でまとめられており好感が持てる。このような良いものが重なっていく形も、心地よい街なみや景観をつくる方法であると言える。

山谷のせせらぐ家

行川



- 設計者・有限会社 西森啓史建築研究所
- 施工者・株式会社 岸之上工務店

評 山谷のふもとに建つ木造2階建の住宅である。道路とは高低差があるが、緑化ブロックが採用され、シラカシや芝桜が施主により植えられており、今後、この擁壁が緑で覆われるに従って、この家がいつそ山々に溶け込んで行くと思われる。近くを流れる小川のせせらぎも感じられるロケーションの良さを活かすべく、建物の南面は、開放感のある大きな開口部と伸びやかな片流れの大屋根が眺められる。全体的に、軒が深く陰影に富んだ優れたデザインであり、高知特有の強い日差しや風雨を遮る実用的なディテールでもある。屋根は片流れの大屋根と階下にある水平屋根の二層ボリュームを組み合わせ、外壁では土佐漆喰仕上げを主にした面構成と押縁の板張り仕上げや軒下のガラス部分からの採光などを考慮して開放的で外光を取り込む方法を対比させて工夫されている。さらに、アプローチ柱の垂直線の構成や持ち送り屋根の方杖を連続させた部分など細部にまで気が配られたデザインとなっている。

ブッダドームとめぐりのもり

五台山



評 五台山・竹林寺の西境内整備事業の一環で「めぐりのもり」というコンセプトに基づいて整備された事業である。深い緑に覆われた場所で鬱蒼とした雰囲気のある森であった境内を親しみやすく自然と融合する広場、連続した水の流れを感じさせる三つの池、森の中へ誘う小道といったアプローチにより公園的な場所に新たに再生させている。ブッダドーム（仏陀覆い屋）は、シンボルツリーであるイチョウと並んで広場の中心にあり、水の流れを感じ明るく開けた場所にある。仏陀尊像を覆うゆるやかな放物線を描くステンレス製の部材や趣きの違うガラス面の表情は、現代的で明るい雰囲気をかもしだしており、周辺の雰囲気にも溶け込んでいる。また、竹林寺に隣接した牧野植物園の温室のイメージとの連想も感じられる。この場所を散策すると、小端立て石を敷き詰めた小道や木橋・石橋、石灯りの照明など細部に至って丁寧にデザインされていることがわかる。伝統を重視する古刹で、このような人が憩いたたずむ新しい庭園の形に取り組んでいることが素直に評価された。

- 建築主…… 竹林寺
- 監修・総括…… 尼崎 博正（農学博士 / 京都造形芸術大学 教授）
- めぐりのもり 設計者・前田 哲男（アトリエ マスタバ）
- めぐりのもり 施工者・株式会社 双葉造園
- ブッダドーム 設計者・株式会社 上田建築事務所
- ブッダドーム 施工者・株式会社 垣内



2011 受賞物件

